rsync

Hiroshi Takekawa

sian@big.or.jp

この文章では、rsync の簡単な使い方を紹介しています。なお、DocBook のせいか、私の mark up が悪いのか、long option のハイフン が 1 つになっていますが、2 つです。

1. rsyncの簡単な使い方

ssh(**scp**) を使ってセキュリティーを 考えてるぜー、という人でも、web の更新なんかは **ftp**、 という人、結構いるんじゃないでしょうか。それではせっかくの **ssh** も意味がありません。しかし確かに **scp** でひとつひとつ転送したりするのは苦痛です... さらに どのファイルをいつ更新したかどうかを考えなきゃならない日には目もあてら れません。そんなあなたに **rsync** を紹介します。

1.1. まずインストール

rsync のページ (http://rsync.samba.org/) にいって tar ball をおとしてきます。その後、

```
% tar xvzf /some/where/rsync-2.4.1.tar.gz
% cd rsync-2.4.1
% ./configure
% vi rsync.h ←ここで#define RSYNC_RSH "rsh"を→"ssh"にする
% make
% su ←別に install しなくても使えるからしなくてもいい
# make install
```

でインストールします。わりと書かれてないことですが、転送先に **ssh**(*-e rsh* とすれば **rsh**) で入れて、**rsync** がインスト ールされていなければなりません。

1.2. 使ってみる

とにもかくにも使ってみましょう。 `~/public_html` にローカルで編集した HTML のツリーが、www.remote.hoge に web サーバがたっ ており、remote でも`~/public_html` が公開しているディレクトリだとしますと、

```
% rsync -auvzb ~/public_html/ www.remote.hoge:~/public_html/
```

とすると転送されます。

実際には転送しないで、なにが転送されるかみたい場合には

```
% rsync -auvzb -dry-
run ~/public_html/ www.remote.hoge:~/public_html/
```

などと`-dry-run` をつけるとよいでしょう。

1.3. mirror に使ってみる

rsync は daemon mode(以下 rsyncd) で動くことができます。 rsyncd の動かし方は後まわしにして... 既に anonymous rsyncd で service を行なっ てるところがあったら、そこからの file 取得に **rsync** を使っ てみましょう。

```
% rsync -auvzb -partial -exclude=binaries -exclude=old-
versions rsync.samba.org::rsyncftp ~ftp/pub/rsync
```

などとすると、**rsync** の本家から **rsync** の ftp 配布 (の一部) を mirror してきます。:: と:が 2 つなのは間違いではありません。`-exclude` でやって るのは、`binaries/`、`old-versions/`をとってこない、という意味で す。`-partial` というのはなんらかの原因で転送がき れても途中まで転送した file を残すという意味です。

ほかにもいろいろな使い方ができます。ぜひ manual を読んでみてください。